



季節を知ったら  
暮らしが楽しくなった

（第二五八号）

白露

九月七日

## 鳥居

暦では、そろそろ草に露を結ぶという「白露」。二十四節気では「はくろ」、草の葉に降りる露は「しらつゆ」と呼び分けます。

しら露の色はひとつをいかにして

秋の木の葉をちぢにそむらぬ

『古今和歌集』 藤原敏行

露は白一色なのに、どうやって秋の木の葉を千々（様々）に染めるのだろうか、平安時代の歌人の感嘆が伝わってきます。

秋は白にちなみ白秋といわれます。また、同じ白の意味で素秋とも。伊勢神宮の檜造りの社殿も白木ではなく、素木と記します。先日、伊勢神宮の鳥居がいつからあるのかという質問を受けました。

平安時代初め、伊勢神宮が朝廷に提出した『皇大神宮儀式帳』に、「於葺御門」と「於不葺御門」という言葉がでてきます。この「於不葺御門」が鳥居の起源ともいわれていますが、草で葺いていない御門と考えられています。式年遷宮についての文献にも社殿や御門は新しく建て替えるという記述はあるものの、鳥居とは書かれていません。今では神社に当たり前のように立つ鳥居は、もともと御門であったのが、仏教の影響などもあり、二脚の門が鳥居と呼ばれるようになり、十一世紀頃に定着してきた。いろいろ調べているとそんな経緯をもつのかも思いました。

伊勢神宮にはじつは様々な鳥居があります。素木の神明鳥居のほか、神宮神田や御塩浜に立つ木の皮のついた黒木鳥居、子安神社の小さな奉納鳥居に、御幸道路にどっしりと立つ崇敬者奉納の石造り鳥居。社殿と異なり、鳥居は人々が奉納するという特徴をもつことに気づきました。それだけに、さまざまな形の鳥居が生まれていったのかもしれない。

文 千種清美

